

デンマークの教育制度

— 国民を幸福にする教育と教育制度の探究（試論） —

桑 原 敏 明

はじめに

（1）なぜ、「デンマーク」か

私は、今年の誕生日（2011年05月05日）で満75歳を迎えた。

日本人男性の平均寿命は79歳余であるし、私はパーキンソン病で多少脳の破損が人より進んでいるから、寿命も能力もあといくばくもないかもしれない。

この短い最後の研究期間を「デンマークの教育制度」の研究に充てることとした。

「なぜ、デンマークか？」

「それはデンマークが、幸福度世界一の国だから」だ¹。

私の願う教育制度研究は、「万人を幸福にする教育と教育制度の探究」²である。幸福度世界一の国・

¹ 「幸福度世界一」国・デンマーク

2005年、ロッテルダムのエラスムス大学教授が毎年行っている幸福度調査2004年版（2005年1月発表）で「デンマーク世界一」 前回の2位からスイス、マルタと並ぶ（⑧高田05,p. 3、②澤渡05、pp.5-6）

2006年、イギリス・レスター大学の社会心理学者エイドリアン・ホワイト氏が「国民の幸福度ランキング」調査 デンマーク1位、日本90位、178位ブルンジ（④スズキ10B,pp.6、12）

2008年、幸福度ランキング（ワールド・バリューズ・サーベイ）：デンマーク1位、43位日本、98位ジンバブエ（⑨千葉09,p.3）

2009年、デンマークの有力紙『ポリティケン』：デンマークが幸福度ランキング世界一となったことを報じる（⑩野村10,p.1）

近年デンマークの社会に関する著書が急増しているが、「幸福度調査」ブームと無関係ではなく、多くの著作が「幸福度世界一の国：デンマーク」を標榜している。

幸福度ランキングの主観性のゆえか、デンマークを上位にランクしない調査もある。地球幸福度指数（The Happy Planet Index）によって、イギリスの環境保護団体である Friends of the Earth が2006年7月に行った調査がそれである。これによると、世界の幸福度ランキングは、1位：バヌアツ、2位：コロンビア、3位：コスタリカ、4位：ドミニカ国、5位：パナマ、6位：キューバ、7位：ホンジュラス、9位：グアテマラ、9位：エルサルバドル、10位：セントビンセント・グレナディーン、31位：中国、95位：日本、99位：デンマーク、108位：イギリス、150位：アメリカ、最下位178：ジンバブエ（2011年07月30日ネット検索「幸福度調査」）と、デンマークは日本とともに世界の中の下位にランクされている。

² 私は、研究者の道を選んで以来、研究の目的について次のように考えてきた。この考えは今も変わらない。

「私は、私の、そしてまたあらゆる人々のすべての活動が、私自身を含めたすべての人類の幸福*を増大させることを念願している。これは、どんな理由にせよ、曲げられない私の信念である。したがって、学問研究という活動も、もちろん、人類の幸福を増大させるためになされなければならない、と信じている。万人の認める学問の評価基準が、人類の幸福以外にあるとして、その基準によって評価されたときどんなに価値ある研究も、人類の不幸に結びつくならば、私はその価値を否定する。

* 私は「幸福」の第1条件を、「生きること」と考えている。生きただけ生きられることが最大の幸福である。（後略）

デンマークでは、国民が「幸福な人生」を送れるような教育を目指し、それを実施するにふさわしい教育制度を確立しているにちがいない。「福祉を充実させるには教育が大切」(⑨千葉 11,p.6)であるからだ。デンマークを訪問して、「幸福度世界一」の鍵は教育にあると思った、という回想もある(①江口 10,p.2)³。

東京教育大学(現、筑波大学)の大学院生だった 1962 年に私たちが立ち上げた教育制度研究会が筑波大学に引き継がれている、その筑波大学「教育制度研究会」への出席を、最後の研究期間と見なされる今からの数年間、認めていただき、当面の間の研究テーマを定めるに当たって、私が選んだテーマが「デンマークの教育制度」であるのは、「幸福度世界一の国・デンマークには国民を幸福度世界一の人生に導く教育制度がある」という仮説があるのである。

という次第で、本稿は、「幸福な人生に導く教育制度原理」とはどのようなものか、という問いへの答を、とりあえず、デンマーク教育に関する既存の和文文献を基に、デンマークの教育制度の中に探してみようとするものである。本稿は、その研究報告の第 1 報である。

(2) 研究枠組み

本稿の目的は、幸福度世界一のデンマークでは、国民が「幸福な人生」を送れるように、どのような教育制度によって、どのような教育が行われているか、を明らかにすることである。

さて、この研究目的はどのような方法によって明らかにされるのだろうか。本論に先立って、いわゆる「研究枠組み」を述べ、読者に本稿の道案内をしておきたい。

とは言っても、本稿の目的に参考になる「研究枠組み」を見たこともないし、聞いたこともない。そんな場合、徹頭徹尾自分で考えるしか方法がない⁴。

私は、次のように考えた。具体的にイメージしていただくために、名前をつけるとすれば、「川魚取り」法とでも呼ぶことができようか。

川魚取りをする場合には、目当てとなる魚(鯉とか鰻とか)が生息する川に網を持って出かけて、網で魚をすくい取る。そして、漁果をあげるためには、A) 川に目当ての魚が生息していること、B) 網が目当ての魚をすくうのに適した編み目になっていることが必要である。これらのことを本研究に当てはめてみよう。

私のこの信念から明らかであるように、私が研究する教育学は、人類の幸福を増大させる教育とは一体どんな教育か、そのような教育をもっとも効果的に実現するためにはどうしたらよいか、を明らかにすることを究極の目的とする。(後略)……拙著修士論文『フランス教育内容管理制度—比較教育学的研究第 1 段』(1962 年 1 月提出)の「第 1 章 研究の出発/第 1 節 テーマの設定/§1 研究の基本的態度」より

³ デンマークの教育・教育制度に関する出典の表示は、引用文または要約文(ただし、各章第 1 節はほとんど引用文であるので煩雑を避けるため、引用記号「」を省略)の末尾に、(巻末<デンマーク教育・教育制度に関する出典>の番号・著者/編者の姓・発行年の下 2 桁・該当ページ)で標記する。例えば、(⑨千葉 11,p.6)は「⑨千葉忠夫『世界一幸福な国デンマークの暮らし方』PHP 新書 618、206p.6,2009.09」の 6 ページより、また(①江口 10,p.2)は、「①江口千春著/ダム雅子訳『デンマークの教育に学ぶ 生きていることが楽しい 対話と教育で築く幸福度世界一の国』かもがわ出版、127p.、2010.11」の 2 ページよりの引用であることを示す。

⁴ 高齢化社会を迎えて、研究意欲と研究能力を保持しつつ、例えば定年退任により研究手段や研究スタッフを失った年金生活研究者の「研究権」をどう保障するか、という広義の教育制度問題が発生している。本稿はその問題への解決策へのヒントを含むものであることを意識している。高齢者の「研究権」については、近々論じてみたいと思うが、ここでは、高齢者の特徴的な脳機能「結晶性知能」(＝経験知)に期待したい、ということだけに止めておく。

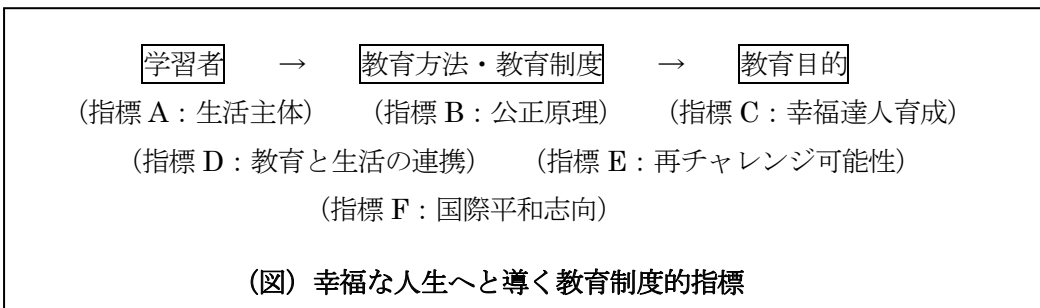
A) 教育制度の領野を川になぞらえる。

目指す川はデンマークと決まった。川が、上流・下流、岩場・砂地・水草繁茂などの特徴によって、生息する魚が異なるように、「教育制度」も、教育体系、家庭教育、幼児教育、義務教育、後期中等教育、高等教育、成人教育、教育行財政などの領域（各章）ごとに教育制度（生息する魚の種類）が異なるから、その概要を叙述する（各章第1節）。

B) 「幸福な人生へと導く教育制度的指標」は、魚をすくう網の網目になぞらえられよう。

次に、「幸福な人生へと導く教育制度的指標」という網の作り方と使い方を説明しておこう。その成果（漁果）は、各章第2節に叙述される。まず、網の作り方は次のようである。

- i) 国語辞典を引いてみると、「幸福」とは、「みちたりた状態にあつて、しあわせだと感じること」（『広辞苑』第二版、岩波書店 p.756）、「心の満ち足りた感じ。幸い。幸せ。」（山田俊雄・吉川泰雄編『角川新国語辞典』p.406）、「不平や不満がなく、心が満ち足りていること。しあわせ。」（北原保雄編『明鏡国語辞典』、大修館、p.558）と説明されている。いずれも大同小異、「幸福」＝「満ち足りた感情」と説明するが、主観的状态や感情を指すので、このままでは客観的な研究枠組みを引き出すことはできない。
- ii) しかし、次のような場合には、本稿の副題に示した「国民を幸福にする教育と教育制度」＝「幸福な人生へと導く教育制度的指標」とすることができるのではないか。



指標 A (学習者主体)：教育の過程において、常時、学習者を主体に位置付け、学習者の発意や学習意欲を尊重すると同時に幸福追求力を鍛える。

指標 B (公正原理)：生活のどの過程においても「公正」たるべし。さもなくば、「不平・不満」で生活主体は気力喪失する。その時点で、幸福探求の気力も喪失する。

指標 C (幸福達人育成)：「幸福」をもたらす教育制度の目的は、「幸福達人」の育成にある。「幸福達人」とは幸福を探求して止まない人格の謂いである。

指標 D (教育・生活の連携)：教育は生活を舞台にして行なわれ、教育制度は、医療制度・経済制度・労働制度等各種の生活諸制度と連携する。

指標 E (再チャレンジ可能性)：人生は複雑で、失敗は付物である。失敗しても何回でも「幸福探求」の再チャレンジを可能にする教育制度を構築する。

指標 F (国際平和志向)：国家を超えて地球規模の視野で、教育環境を整備し、「国際平和」と社会の「安心・安全」のうちに教育が行われるように配慮する。

- iii) ii) の「幸福な人生へと導く教育制度的指標」に合致した制度がデンマークの教育制度のどこに見られ、どのような工夫がなされているかを分析する。（川の魚を網ですくう。指標に合致する制

度の原理や工夫の数を下表に書き込み、教育制度の幸福度を評価する。)

	指標 A	指標 B	指標 C	指標 D	指標 E	指標 F	小計
I、教育体系							
II、家庭教育							
III、幼児教育							
IV、義務教育							
V、後期中等教育							
VI、高等教育							
VII、成人教育							
VIII、教育行政							
IX、総括							

本稿は、上の表の順番で、各章ごとに、「第 1 節 教育制度の概要」、「第 2 節 教育制度と“幸福な人生”」（指標 A～指標 F による教育制度分析）を述べ、第IX章で、デンマーク教育制度の特性を総括し、人類史的意義を考察する。

第 I 章 教育体系

第 1 節 教育体系の概要

1) 教育体系

最初に、デンマークの教育体系の概要を理解していただく。

学校体系図（⑨千葉 11、p.75）をごらんいただきたい。

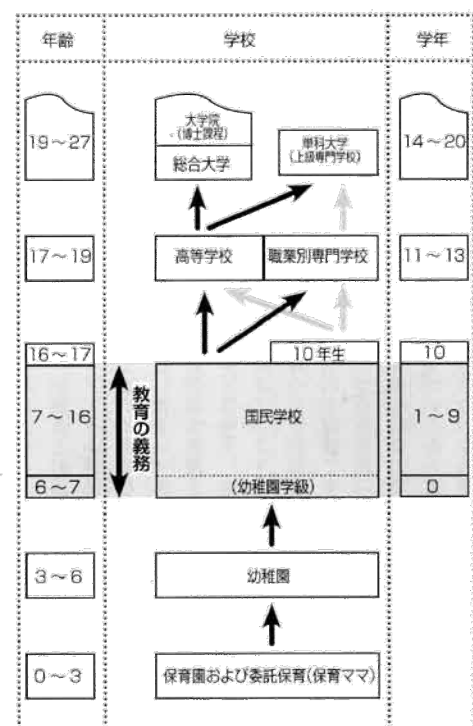
この図からわかることは、以下の通りである。

①すべての国民に、発達段階に応じて、5 段階（1、保育園保育及び保育ママへの委託保育、2、幼児教育、3、初等教育+前期中等教育、4、後期中等教育、5、高等教育）の教育を保障する統一学校体系であること、

②6～16 歳まで 10 年間の国民学校教育がすべての国民子弟に保障されること。しかし

③国民学校の下と上に「0 学年」と「10 学年」が設置され、進路指導機能が学年編制として制度化されていること、

④義務教育の国民学校以降は、成人の準備教育や現職教育として専門教育や職業教育の時期であり、



資料：2010 ©Dansk-Japansk Folkehøjskole all right reserved.

デンマークの学校体系図

(出典：千葉忠夫『格差と貧困のないデンマーク』PHP 研究所、2011 年、75 頁)

すべての国民子弟は、年齢にかかわらず各自の必要に応じて随時、教育キャリアを蓄積することができること。

5つの教育段階の教育制度の概要は、当該の各章に譲ることとして、「0 学年」及び「10 学年」という他国に例を見ないデンマーク独特の制度についてその骨子を述べる。

2) 0 学年（就学前クラス Boernehaveklasse）

＜設置＞義務教育学校＝公立国民学校（第Ⅳ章参照）に附設することが義務づけられている。

＜目的＞学齢（6 歳）に達しても国民学校の教育についていけないのではないかと不安だ、もう 1 年は幼稚園教育を受けさせるほうが子どものためになる、などの理由から、保護者が「第 1 学年」を避け、「0 学年」を選ぶことのできるように設置されている。義務教育である国民学校に進学しながら、国民学校の教育を受ける手前の学年という意味で「0 学年」と呼ばれる。「0 学年」の教育は、幼稚園式遊び中心教育なので「幼稚園クラス」「就学前クラス」とも呼ばれる。いずれも国民学校教育への準備教育が「0 学年」の役割であることを表わしている。

＜教育内容・方法＞遊戯や他の児童との協力活動を通じて学校生活に向けての準備を行うことであるが、いわゆる義務教育ではない。遊び中心に、言葉と表現、自然の様子、音楽、協力することなどを学ぶ。0 学年には担任 2 人以上を置いて、生徒一人ひとりの成長を観察し保護者にアドバイスする。1980 年に国民学校への就学前学級の併設がコムーネ（自治体）に義務づけられ、2009 年に「0 学年」を加えて義務教育が 10 年制となった。

2009 年に義務となる以前は、原則として、「0 学年」では読み書きを教えないことにしていたが、義務となつてからは教えるようになった。また、時間の概念を教えるために、時間割に沿った行動へと切り替わり、座席が指定されるようになった。午前中 4 時間あり、そのほか歌を歌う時間、数学を学ぶ時間、みんなで遊ぶ時間など。「0 学年」は幼稚園から学校へ移るためにソフトランディングさせる期間としての役割を鮮明にしている。

授業では生徒は徹底して発言を求められる。授業内容は意見を言えるように工夫されており、子どもたちは発言することを身に付ける。

0 学年で 1 年過ぎて、1 年生に進むにはまだ早いと判断されると 0 年生を 2 回することもある。

（⑨千葉 11,pp.80-82）

3) 10 学年

＜設置＞国民学校に「10 学年」が設置されている。「0 学年」同様、進路指導のためである。

＜目的＞国民学校の卒業生は、9 年生卒業時に将来の職業を展望して、後期中等教育のどの進路を選択するか決定するのであるが、これを決めかねている生徒や少し学力が足りなくてこのままでは高等学校へ進学するのに不安を感じる生徒等、9 年生の約半分の卒業生が 1 年だけ補習教育を受ける学年である。（⑨千葉 11,pp.90～）

＜教育内容・方法＞常時親や担任と相談しながら、自分の将来の進路を決定していく期間である。教育活動も企業での実習や高等学校への体験入学といったものが多く取り入れられている。（⑨千葉 11,pp.90～）

【ニューゴード校】 10 学年の独立校 生徒 240 名 教員 25 名 （①江口 10,p.68-70）

4) 憲法の教育条項＝国民全員で教育を受ける権利を守る

憲法第 76 条：「教育義務の年齢に達したすべての子どもは、フォルケスクーレ（以下、FS＝国民学校）において無償の教育を受ける権利を有する。保護者（親）もしくは後見人は子どもに対し、FS の基準に等しい教育を受けるように自ら措置するかぎり、FS においてその子どももしくは被後見人に教育を受けさせる義務を負わない」（教育義務型。③スズキ 10a,p.93）

5) 特別支援教育

障がい児の捉え方：ユニークな特徴を持つ子どもに対応した教育を

障がい児教育の 3 形態：①共学、②特定科目のみ特殊学級で、③養護学校で。どれが良いかは心理判定員、最終的には親が決定する。生徒の住む地域に、生徒に適した学校がなければ他の地域の学校に通う。（⑪野村 10,p.192）

1958 年、国民学校法が改正され、「特別支援教育」概念導入。障がい児を障がい別に 5 つに区分（言語障がい／弱視／難聴／智恵遅れ／難読症）し、それぞれの障がいの特性と子ども一人ひとりの発達段階と学習能力をベースに、子ども自身が楽しめるような独自の学習方針を取り入れている。

第 2 節 教育体系と「幸福な人生」

前節で述べたデンマークの教育体系という漁場を、「はじめに」で作成した「幸福な人生へと導く教育制度的指標」という網でつくってみよう。どのような魚が取れるだろうか。

1. 指標 A（学習者主体）

1-1 胎児から高齢者までの発達段階に応じた生涯学習体系

胎児期、乳児期・幼児期・児童期・少年期・青年期・成人期と発達段階に応じて区分される生涯学習体系。

1-2 個人差に応じる学校制度

「0 学年」、「10 学年」の制度化。後期中等以降年齢制限なく、生徒や保護者の希望で随時進路変更をすることができる。

1-3 特別支援教育＝ノーマライゼーション

障がい児の捉え方：ユニークな特徴を持つ子どもに対応した教育を

2. 指標 B（公正原理）

2-1 憲法の教育条項＝国民全員で教育を受ける権利を守る

2-2 統一学校

貧富、性別、社会的地位、国籍などの差別なく、すべての子弟が就学前教育から高等教育まで平等に教育を受けることができる。

3. 指標 C（幸福達人育成）

3-1 国民義務後皆学

義務教育である国民学校卒業後も各自の進路希望にしたがって無試験・無償で進学を保障される。すべての国民が、成人になったときに、適材適所の職業資格を持って、職業に就くことを保障するためである。「10 学年」は生徒の適材適所の判定と補習のしくみである。

4. 指標 D（教育・生活の連携） とくになし。

5. 指標 E (再チャレンジ可能性)

5-1 教育体系は再チャレンジの機会の体系である

いつでも再教育を受けられる機会を用意し、何度でも再チャレンジする機会が与えられる。
主要な機会を列挙するだけでも次のようである。

- ① 生後 5 ヶ月からの保育を、保護者が行うか、保育ママに委託するか、保育所に入れるか。
- ② 3～6 歳の教育を幼稚園に入れて行うか、保育所の保育を継続するか、保護者だけで行うか。
- ③ 学齢期の教育を、保護者だけで行うか、「0 学年」を活用するか、公立国民学校に入れるか、私立学校に入れるか。
- ④ 9 学年修了後の進路をどうするか。「10 学年」を活用するか、ギムナジウムに進ませるか、高等学校の商業コースないし工業コースに進ませるか、職業学校のどの職種に進ませるか。
- ⑤ 高等教育の長期、中期、短期のいずれについてどんな必要のためにどれを選択するか。
- ⑥ 結婚、就職、転勤、移転、社会変動などに応じて、学校教育、成人教育、学習運動などをどのように連動させるかなど。

6. 指標 F (国際平和志向) とくになし。

第Ⅱ章 家庭教育・乳児教育

第 1 節 家庭教育・乳児教育の概要

「教育制度」を説明するに当たって「家庭教育」が出てくることには違和感を覚える読者も多かろうと思う。それは「教育制度」を「学校制度」と混同しているからである。家庭教育が「教育」である限り、「教育体系」に位置づけなければならない。

1) デンマークの家族

結婚 多くの場合、ある程度と同棲期間を経てから結婚へいたる。(②澤渡 05,pp.57,87) ⇒夫婦間の人格や人生観の相互理解のメリット

家族構成 94%が核家族 (③スズキ 10a,pp.65-) ←農業人口の低減「家督を継ぐ」という考えがない。親の死後は、残された土地を必要ならば、子は固定資産評価額で買い取る。

成人年齢 18 歳。親の扶養義務も 18 歳で終了。その後は国家 (国民全員) がその生活を支援。原則、働かなくても生活できるだけのさまざまな名目の援助が与えられる。

2) 出産と医療・保健・医療・保険制度

出産に際し、夫も病院に泊まる。出産にかかる費用は政府の負担。新生児が 1 歳になるまで保健所が 5 回訪問してくれ、身体測定と発達のチェックをしてくれる。「デンマークはお金がなくとも医者にかかり、治療してもらえる」税金を払う喜び (①江口 10,p.13)

妊娠 8 週目から 10 週目の間に医師による検診が始まる。その後、25 週目、35 週目に検診。また、12 週目から胎児のスクリーニング診断が行われる。とりわけ 20 週目のスクリーニング検査では、胎児の頭から爪先まで发育チェック。妊娠 15 週目からは助産婦による検診が始まる。出産までの間に 8 回の医師による検診・相談とスクリーニング検査、助産婦による検診があり、これらはすべて無料である。(③スズキ 10a,p.33)

04 年以降、すべての妊婦がダウン症診断を受けられるようになり、その結果、胎児にダウン症が見

られた場合、妊婦は中絶を選択できるようになった。そのため、ダウン症児の出生数が 04 年以前の年間約 60 人から 08 年は 21 人と大幅に減った (③スズキ 10a,p.33)。

保健師制度 市町村の厚生衛生課などに所属する約 1500 人の保健師がいる。保健師は一般家庭、学校、児童施設、市町村のデイセンターを担当して、親子の健康促進を図るための精神面、肉体面、社会保険面でアドバイスなどの業務に携わっている。(③スズキ 10a,p.57)

保健師の資格を得るには、保健師専門学校で 1 年間勉強。そこへの入学資格は看護師資格を持ち、最低 2 年間看護師として常勤の勤務経験 (5 年以内に最低 5 ヶ月は小児科に勤務し、最低 4 ヶ月は常勤の在宅看護師として勤めた経験をもつ) が不可欠。保健師専門学校はコペンハーゲン市とオーソス市にあり、年間の入学枠は各 50 名。

赤ちゃんが生まれるとすぐ助産婦または病院から地域を担当する保健師に報告が行き、報告を受けた保健師は 1 週間以内に新生児の母親と連絡を取り、最初の乳幼児健診の予約をとる。

担当になった保健師は生後 1 ヶ月の間は週 1 回母子を訪ねて、乳児の体重、栄養状態をチェックし、母親に食事のアドバイスを行う。乳児の成長とともに訪問回数は減少するが、乳児一人当たり、平均訪問回数は 12 回だといわれている (③スズキ 10a,p.57)

乳児の定期健康診断 生後 5 週間から始まり、3 ヶ月、5 ヶ月、12k 月の時点で、ジフテリア、破傷風、百日咳、小児マヒ、肺炎の予防接種が行われる。5 歳になると再度同じ予防接種。はしか、耳下炎、風疹への予防接種は、生後 15 ヶ月と 12 歳のときに行われ、12 歳の女子には HVP という性病対策の予防接種も行われる。ほとんどの保健師が「家庭保健師」(0~6 歳の子どもを受け持つ) と「学校保健師」の役割も兼務するから、生まれてから同じ地域で暮らし続ける限り、小学校に上がっても、同じ保健師がその子の日常の生活に関わる。それぞれの子どもに専属の看護師さんが付いているようなものであり、健康上の心配はない。(③スズキ 10a,p.58)

家庭医制度 デンマークでは一家に 1 医師が決まっている (家庭医)。家庭医は、血圧や血液検査を含む日常の健康診断を行い、病気、怪我などの最初の診療に当たる。乳児の健康診断も、最初の相談相手も家庭医で、専門医の診察や治療を受ける場合には家庭医からの紹介が必要である。週末、祝祭日は当番医制度でカバーしている (③スズキ 10a,p.59)。

家庭医の数は人口に応じて人口 1,500 人につき 1 人、と市町村が調整している。開業の許認可は市町村が行う。06 年現在、家庭医 : 約 3,700 人。この他耳鼻咽喉科などの専門分野の家庭医 : 831 人 (07 年)。

家庭医として開業するには、大学医学部卒+病院の勤務医として最低 3 年間働きながら、専門の指導プログラムに基づいた各種の教育研修を受け、資格取得+最低半年間家庭医の下で勤務した後やっと開業できる営業権を買い取る資格を得る。買い取り価格は 50 万~150 万クローネ (1,000 万~3,000 万円)。しかし、空席ができなければ、空席待ちが生じる。(③スズキ 10a,pp.59-)。

3) 乳児教育

0~3 歳の幼児の教育制度は、保育所と保育ママ制度によって行われている。0~3 歳保育所や保育ママ、3~6 歳幼稚園、0~6 歳までの総合保育園。

乳児教育の内容・方法 オーデンセにあるフュン国立社会人教員大学 the Fuenen National Institute of Social Educators では、「就学前教育と民主主義」という科目があり、これが附設されて

いるリベールト大学教育学部では初等中等学校教員志望コースに「民主的市民育成の学習指導」というコースが設けられている。ここでは「北欧民主主義とは?」「教育、民主主義、及び個人の成長」等を学習する。実践では、ホームルームが大切な機会とされ、話合いが重視される。(⑩野村 10,p.182-)

父子と一緒 丁の父は、子と一緒に過ごす時間が長い。週当たり労働時間は 37 時間と決められているので、午後は早く切り上げる人が多い。3 時半頃から帰宅のラッシュアワーが始まり、5 時頃までに家に到着。(①江口 10,p.8)

母も仕事 丁の母は、安心して仕事に出かける。子どもを預ける制度が確立されているから。(①江口 10,p.9)

家族団らん 夕飯時の家族団欒。家族みんながそろそろ。子どもはその日の出来事を話す。

育児休暇：母親の育児休暇は 1 年間。父親も休暇を取る。(①江口 10,p.10)

保育所 (creche) 地方自治体の設置義務。0～2 歳児の 66%を収容。 3～5 歳児で 97%。有料だが、子ども手当てで充分支払える。(③スズキ 10a,p.68)

幼稚園と保育園の区別がない。保育園ではひたすら遊ぶ。つめこんだり、押しついたりするのは“子ども時代”を奪うこと。食事や昼寝も散歩も、無理やりやらせない。外に出たがらない子がいたら、遊んでいる子を見て引き込まれていくようにする。(①江口 10,p.14)

【アイスクリームを食べる時】「これくらい?」「もうちょっと?」と幼児に聞きながらよそう。「多すぎた?」「ちょうどよかった?」「すくなかった?」と確かめる経験をさせて、判断力のある子が育つようにしている。親とは直接話すことを大切にして、連絡ノートをつけない。乳児がオムツを外す時もトレーニングはしない。(①江口 10,pp.16-)

【ある保育園】スタッフ 16 名、乳児グループ 26 名 2 クラス。1 クラス 13 名の子どもを 4 名の大人がみている。幼児グループ 45 名 2 クラス。1 グループ 12～13 名を 3 名の大人がみている。(①江口 10,p.16-)

【サント・ヨアンスベヤグ総合保育園】園庭の真ん中に木々があり、小屋がある。「遊び躍動する子ども時代あってこそ、生活力あり自立できる人が育つ」とクリステンセン園長 (①江口 10,p.18)

【リュングバッケン総合保育園 (LN)】1960 年代、高層住宅が増加する中、コンクリート空間の中でなく、土の上で育てたいという親たちが集まって建てた。自然の中で、五感を使って、その子らしく発達してほしい。園舎らしい建物を持たず、毎日毎日森へ出かける園もある。普通の保育園だけどクラスで森に行くタイプもある。LN は 0～6 歳の総合保育園。4 歳以上になると、森へ行く週と園で過ごす週を 1 週間おきにくり返す。親の希望がまとまり、スポーツ重視の保育園もできている。「おやくそく」○大人の見えなくなるところまでは行かない。○道が分かれたらそこで待つ、○木の枝は折らない、○リュックに入らないものは持ち帰らない、○おもちゃは持っていかない、○キャンデーは皆に分けて上げられるなら OK。「子どもを叱るとき」絶対に怒鳴りつけない。その子にちゃんと向き合って、本当に思っていることを伝えること。「ここで育った子」○何事にも関心、やる気あり、動植物に詳しく、もろにことならなんでも知っている、免疫力あり、病欠が少ない。(①江口 10,p.19-22)

【ステンリュース森の保育園】小さい子も大きい子も一緒に毎日森で過ごす保育園。(①江口 10,p.23)

保育士 子どもの意思の尊重、子どもに話すのではなく、子どもと話す。保育士は子どもが遊ぶの

を見守る。自治体は保育所を十分に用意する義務。朝 6 時半から夕方 5 時まで開園。昼食付き。4 歳児以上になると、森へ行く週と園で過ごす週を 1 週おきにくり返す。自治体は子どもの人数に応じて経費を負担する。親の希望で特色ある保育園もできる。(①江口 10,p.14ー)

乳幼児保育 乳幼児には保育園。3 年生までは学童保育所。4 年生以上には青少年余暇センター (①江口 10,p.9)

保育ママ (ダウプライヤモアー＝介護かあさん)

0 歳～3 歳の乳幼児のほとんど? (約 6 万 6,000 人) が「ダウプライヤモアー」に預けられる。「保育ママ」は市町村で認定を受けた保育の専門家であり、自宅で子どもを預かり、保育を行う。保育対象年齢は 0.8～2.5 歳。ママ 1 人につき 4 人の乳幼児が定員 (5 人まで可能)。現在約 2 万人の「保育ママ」がいる。保育時間：月～金の週 5 日、朝 6：30～夕方 18：30。利用料金：預ける時間によって異なるが、公共・民間ともに 2 人目から半額。超過する場合、一人当たり 1 時間 50 クローネ (約 1,000 円)、2 人以上を預けても最大 100 クローネの頭打ち。民間に預けた場合、時間数が週 48 時間までは市町村から総額 75%の助成金の受給がある。これを超えると助成金比率が下がり、保護者の負担が増大するが、そもそも週 37 時間労働制なので、48 時間以上預ける場合はまれにしかない。

保育ママとして市町村の認定を受ける条件：自宅に子どもを預かるスペースのある 20 代から 40 代までの母親か父親で、子育ての経験があること。実際には 50 歳代の者もいる。年 2 回、計 2 週間の育児に関する研修を受ける義務がある。研修費用は公費負担。逆に研修期間中も手当が支給される。保育ママはビジネスとして十分に成り立つほどの所得を得る。(③スズキ 10a,pp.68ー)

マザーズグループ 保健師の仲立ちで母親 6 人のマザーズグループを結成する。ホストが持ち回りで毎週寄り合いを開く。「子どもと二人ぼっち」の弊をなくすためである。(①江口 10,pp.12-13)

4) 育児支援

子ども手当 (18 歳まで月額) 0～2 歳：約 24,000 円 3～6 歳：約 19,000 円 7～18 歳：約 15,000 円 (①江口 10,p.10、④スズキ 10b,pp.74-76)

教育休暇・育児休暇 1994、教育休暇・育児休暇を含めた法律を導入。0～8 歳の子どもを持つ親は最低 13 週間、最大 52 週間までの休暇が取得可能になる。休暇手当は失業保険の 7 割を受給できる (スズキ 10a,p.78)。母親休暇：出産後 14 週間、父親休暇：誕生直後 2 週間、両親休暇：9 歳まで合わせて 32 週間 (①江口 10,p.10)

子どもがいる学生に 2 倍の学生支援金 (③スズキ 10a,p.54)

労働時間 週 37 時間 午後は早く切り上げる人が多い。3:30 頃から帰宅ラッシュが始まり、5 時頃までに帰宅。母親は家庭と仕事場の両方で活躍 (①江口 10,p.8)

母子支援センター 市町村にある。デンマークには約 12 万人の母子家庭がある。センター報告書 08 によると、相談者の 3 分の 2 がシングルマザーで、経済的問題や離婚問題、親権、子ども同居関連問題、家庭内暴力など (08 年現在、有給スタッフ 45 名、ボランティア 427 名) (③スズキ 10a, p.35)

センターの主な支援：・施設内での妊婦の保養滞在 ・施設内での乳幼児を持つ母親の休暇滞在 ・育児支援 ・出産前後における保護者への経済面への助言 ・母子家庭の生活相談 ・妊婦や幼児を抱える家庭への住居の斡旋 ・私生児への法的経済面でのアドバイス ・教育支援

コペンハーゲン市、オーフス市、オーデンス市に事務所、地方都市 5 箇所にも市所があり、全国から

電話相談が可能である。(③スズキ 10a,pp.33-)。

ソーシャル・カウンセラー (以下、S カウンセラー) 母子支援センターに所属。資格：高校卒後、大学で3年間学び、心理学、精神学、法学一般、社会法学、社会科学(政治経済学、社会学、経済学)などの単位を取得した後、4ヶ月間の実習教育。08年現在デンマークには約9,500人のSカウンセラーがいる。

S カウンセラーは、行政機関と連絡を取りながら母子家庭が受けられる各種の手当てなどの手続きを手伝い、離婚・親権問題などの相談に乗る(③スズキ 10a,p.38)。

保育・児童施設の利用料金 高収入家庭は保護者負担・低収入家庭は市町村負担の制度＝子どもたちは保護者の年収が低くても高所得家庭の子どもと同じ育児サービスが受けられる仕組みになっている。(③スズキ 10,pp.73、74)

第2節 家庭教育・乳児教育と「幸福な人生」

1. 指標 A (学習者主体)

1-1 子ども一人ひとりに家庭保健師、各家庭に家庭医1人が指定されており、一人ひとりの健康管理に責任を持つ

1-2 育児休業を保護者に保障し、保護者とその子弟の接触時間を多くする

デンマークの労働時間は世界一短く、育児休業は世界一長い。この長い余暇を用いて、家族が時間を共有し、共通の活動をしながらそれぞれの課題を話し合う。

2. 指標 B (公正原理)

2-1 出産、医療は無償である

2-2 18歳まで子ども手当が支給される

3. 指標 C (幸福達人育成)

3-1 民主主義の理解と訓練

乳幼児教育担当の教員養成、ひいては乳幼児教育の段階から、民主主義の教育を重視している。保育所では自由遊びを通じて、自由と責任を自然に体得させる。

3-2 孤独を避け、仲間づくり、話し合いで問題を解決する訓練、育児支援体制

出産にパートナーや家族を立ち会わせる、マザーズグループの結成、乳児の育児や保育について保護者も迷いが多く母子支援センターやSカウンセラーの支援制度が整備されている。

4. 指標 D (教育・生活の連携)

4-1 教育・医療・福祉の連携

家庭医制度、保健師制度により乳幼児の受教育権の基盤をなす健康権を保障すると同時に、家庭医や保健師に保育所や幼稚園を担当させることによって教育との連携を図っている。

5. 指標 E (再チャレンジ可能性)

5-1 子どもの様子を見て保護者は育児環境を変えることができる

6. 指標 F (国際平和志向) とくになし

第三章 幼児教育

第1節 幼児教育、就学前教育の概要

1) 幼児保育

10歳以下の約82%が保育ママ、保育所、幼稚園など各種の施設で保育されている。「待機児童」等いない(08年10月)。ほとんどの幼児が市町村の運営する「公共の施設」を利用している。これらは有料であるが、国からの「子ども手当」によって実質ゼロ負担である。(①スズキ 10a,p.67) 他の施設や人手に一切託さず、保護者が育児に専念する場合もある。

幼稚園 Boernehave 生後6ヶ月乳児からの乳幼児保育施設・保育所 Creche と同様、3歳から6歳の幼児を対象に40人から80人規模で幼稚園を設置することが市町村に義務付けられている。

3歳になるとほとんどの子どもは幼稚園に入る。親の働く時間帯がさまざまなため、保育所や幼稚園は、朝6時から始まる。早朝預かり、9時預かりと、朝は融通が着くけれど、夜間に預かる場所はありません。近所の顔見知りの中学生にアルバイトとして、夜10時まで子供の面倒を見てもらうことができる。(⑨千葉 11,pp.74-76)

保育所も幼稚園も義務ではないので有料。しかし、高校、職業別専門学校、大学は義務ではないのに無料。それはなぜか。それは、昔女性が家庭で子どもの面倒を見ていたからだ。(⑨千葉 11,p.76)

4歳児以上になると、隔週おきに森の中の学習と幼稚園の中の学習をくり返す。(①江口 10,p.21) 幼稚園までは読み書きの教育をあえてしない。はじめて社会と接するところなので、読み書きよりも皆と仲良くなることが大切とされる。遊びを通して自由と責任を自然に身に付けさせる。大きい子は小さい子の面倒をみさせ、小さい時から、障がい者とできるだけ接触させる。(⑪野村 10,pp.185-187)

○サンクト・ヨアンスベヤグ総合保育園 園庭の真ん中に木々があり、小屋がある。木に登り枝をゆする姿は「森の中の子」のようだ。遊んで汚れるのはあたり前。……「遊び躍動する子ども時代があつてこそ、生活力あり自立できる人が育つ」とクリステンセン園長が言う。園舎の中は空だった。(①江口 10, p.18)

○リュングバッケン総合保育園 1960年代に高層住宅がたくさん建てられた。子どもはコンクリート空間の中ではなく、土の上で育てたいという親たちが集まった。自然の中で、五感を使ってその子らしく発達してほしい。願いが実を結んで森の保育園が作られていった。園舎らしい建物も持たず、毎日毎日森へ出かける園もある。普通の保育園だけど、クラスで森へ行くタイプもある。(①江口 10,p.19)

2) 多様な児童家族手当

(③スズキ 10a,p.74)

第2節 幼児教育と「幸福な人生」

1. 指標A (学習者主体)

1-1 幼児教育でも、いっさい強制しない (自己決定の尊重)

2. 指標B (公正原理)

2-1 家計が就学に影響しない

3. 指標C (幸福達人育成)

3-1 教育の基盤をなす体力・健康をすべての乳幼児に保障するために家庭保健師・家庭医師制度が確立されている。

3-2 幼児教育においては自然環境の中での遊びによる基礎体力および仲間作り話合い技法の修得を重視

4. 指標 D (教育・生活の連携)

5. 指標 E (再チャレンジ可能性)

6. 指標 F (国際平和志向)

第Ⅳ章 義務教育制度

第 1 節 義務教育制度の概要

1) 国民学校 (フォルケスコーレ=FS)

フォルケスコーレ FS (公立国民学校) : 基礎教育のための公立学校。全国に約 **1,900** 校ある。幼稚園クラス=0 学年 (6 歳) : 6 万 7639 人 1~10 学年 (7~16 歳) : 61 万 7,062 人

<目的・内容・方法> FS 法 (1994 年改正) 第 1 条

第 1 項「FS は保護者と協力して生徒個々の全人的な発達を促すため、生徒の知識、技能、学習方法、表現力を高めることを課題とする。」(⑪野村 10,p.182)

第 2 項「FS は、子どもの認識力、創造力、向学心を育成するために、体験及び勤労の機会を与えるよう努める。それによって、子どもは自己の可能性を見出し自己判断力と自己行動力を習得する。」

第 3 項「FS は、子どもがデンマーク文化に親しみ、他の文化や人間と自然の相互関係を理解し、それに貢献するよう育成する。FS は、子どもが社会への積極的参加、共同責任、自由と民主主義の社会における権利と義務を学び、準備する場である。そのため、学校での教育や日常生活は自由な精神・平等・民主主義の上に成り立つものでなければならない。」

第 4 項「学校は、生徒に自由と主権在民の基礎となる社会の中での連帯責任と連帯決議権ならびに権利と義務を教える。」

第 5 項「ゆえに、学校での教育と日常生活に対する教育の基本姿勢はすべて精神的に自由で人間として同等の価値観、民主主義に基礎をおく。」(⑪野村 10,p.182)

「弱者を助ける」「実力を身に付ける」(⑨千葉 11、p.74)

<学校の構成>

フォルケスコーレは、6 歳~16 歳までの義務教育の一貫制学校であるが、学校の構成はさまざまである。①ゼロ学年 (6 歳 1 年)、②小学校 (1~6 学年)、③中学校 (7~9 学年)、④10 学年を基本型として、自治体や地域の伝統などにより、さまざまな構成や規模をもっている。例えば、各学校は、基本型のみだったり、いくつかあるいは全部を組み合わせで構成されている。

【ヒメレブ国民学校】32 クラス 770 名。教員 55 名。】1 クラス平均 24 名。(⑪江口 10,p.24)

<教科・科目> デンマーク語、数学、体育、宗教は全学年にある 歴史は 3~9 学年 社会は 8・9 学年、自然科学・技術は 1~6 学年、生物・物理・化学は 7~9 学年、デザイン・木工・金属加工・家庭経済は 4~9 学年に 1 年以上学ぶ 第 1 外国語=英語は 3 学年から 第 2 外国語=独・仏は 7 学年から選択科目 その他①交通安全、②健康・性教育・家庭生活、③進路についてのオリエンテーション

ジョン 移民子弟のデンマーク語教育 (①江口 10,pp.24ー)

1994 年の主な改正内容：①授業時間数を増やす、②英語教育の開始を従来の 5 年から 4 年に繰り下げ、③「自然・技術」の授業科目を導入、④教育の個別化（個々の児童生徒の能力に応じた教育）の重視、⑤専門教科を超えた「テーマ学習」（クロス・カリキュラム）を強化、⑥教育効果を定期的に評価 (⑩西澤秀夫 99,p.197)

学年別教科目 <必修科目>国語：全学年 キリスト教の知識：全学年 体育：全学年 算数・数学：全学年 絵画：1～5 学年 音楽：1～6 学年 自然と技術（従来の地理、生物、物理、化学を統合）：1～6 学年 歴史：3～8 学年 社会（基本的な社会的事象・問題について、その社会的・歴史的背景などを理解することを目的） 手芸・木工・家庭科：4～7 学年 英語：4～9 学年 地理と生物：7～8 学年 物理：7～8 学年 化学：7～9 学年 交通安全学習：全学年 健康と性教育及び家族の知識：全学年 教育、職業及び労働市場の知識：全学年 <選択科目>ドイツ語又はフランス語：7～9 学年 職業の内容を知るための科目：8～10 学年 ラテン語：10 学年 (④スズキ 11,p.96、⑩西澤 99,p.198 若干異なる)

<民主主義教育>

教員養成機関のカリキュラムの中に民主主義教育に関するものがある。オーデンセにあるフン国立社会教員大学では教育学領域群の中に「就学前教育と民主主義」という科目を設けている。またこの大学が属しているリベレルト大学の教員教育学部の教員養成課程の中にも、初等中等学校教員志望学生のために「民主的市民育成の学習指導」というコースが設けられている。そしてコース履修者が提出する研究課題として「北欧型思考の民主主義とは」「教育、民主的市民、及び個人の成長」を設定している。(⑪野村 10,pp.182-183)

学校教育の目的の大きな使命の一つ＝生徒に民主主義を教えること。ホームルームは民主主義を体得する大切な機会。話し合いを重視し、物事を決める過程で他人の意見を尊重することを学ぶ。そして自分の意見をはっきり述べるのが大切であることを学ぶ。……皆が納得できる結論が出るまでとことん話し合う。(⑪野村 10,p.183)

<言語教育> 国語教育で国民が理解しあう能力を育てる ○1 年生から 2 年生の教育目標 ○3 年生から 6 年生の教育目標：自分の経験や考えを言葉で表現することに重点 隣国ノルウェー語とスウェーデン語の学習開始 ○7 年生から 9 年生の教育目標 ○英語教育によって国際市場で働ける人材を養成する コペンハーゲン工科大学の卒業論文の 98%は英語で書かれる。3 年生 (03 年以前は 4 年生) ～5 年生 6・7 年 8・9 年 10 年生 キリスト教で倫理を学ぶ 1・2 年 3～6 年 7～10 年 (③スズキ 10a,p.96-)

<テーマ学習> 1 年生から大事にしている

テーマ：低学年——「キャンプを成功させよう」「学校をきれいにしよう」「アンデルセンってどんな人」

5 年生：「水」——生徒、各家庭の消費量調査→発表、節約の話し合い、浄水場の見学

「宗教 イスラム、ムスリム」

6・7 学年：「地球温暖化防止について」「性の教育」

8 年生：「個人と共存」——小テーマ「麻薬依存と暴力・抗争」、インタビュー、映画など

にまとめる

9年生：「宗教 みんなで住んでいる世界 イスラム、ムスリム」

「社会科 政党の政策を知ろう」

親も参加する会場で発表。学習経過と発表が卒業要件に入る

問題の解決能力の育成 (①江口 10,pp.54-65)

＜職業教育＞ 小学1年生から始まる

○1～3年生：日常生活やクラスの体験を題材としての討論 例：両親の仕事／男女の役割／ソーシャルネットワークなど 1～2日見学

○4～7年生：地元での進学・就職の可能性、起業、若者が働く環境、権利、将来の計画等のテーマで討論。

○8～10年生：外国での就学と就職の可能性、自己の教育計画とそれに向けた行動計画の作成、働くことの価値と心構え、失業と仕事がなくなったときの対処法など。具体的な技術としては、コンピュータプログラム、データベース、インフォメーションシステムの使い方、履歴書・給食所の書き方、起業と経営の実際が教えられる。(③スズキ 10a,p.104) してみたいと思った職場に、1～2週間実習進路ガイドブック (A4版分厚い本。職種、入学資格、資格取得に必要な学習期間、初任給、その他) 参照。(⑨千葉 11,pp.86,88)

＜授業=点数で評価しない＞

デンマークでは個人の価値観や自由（自己決定）を尊重し、それぞれの生活の仕方を認める。このような民主主義の理念は教育現場で育てられている。特に国民学校ではその重要な役割。ボーゲンセ国民学校の事例（生徒 460 人、教職員 45 人、両親 655 人、勉強についていけない子 12 人）：学校では他人を尊重することの大切さを教え、子どもの自由な考え方や自己決定を大切にする。子どものコントロールよりも、やりたいことをやらせる。遊びを通して他人との関係や協力の仕方、ルールの大切さなどの社会性を育てることに主眼を置いている。デンマークでは、人の評価は、結果よりもそれに至る過程でどれだけ努力したかということが評価される。大人になっても、どんな職業に就いたかというよりも、その仕事にどれだけ誇りと喜びをもって取り組んでいるかということに価値を置いている。子どもは授業を受ける機械ではない。あくまでも人間として尊重することが大切だ。(⑩野村 10,p.193-194)

日本のような陰湿ないじめはほとんどない。いじめや不登校対策として効果的なのは小さい学校規模と少人数学級と担任持ち上がり制度。担任はクラスでの授業時間の最も多い国語の教員。次に多い数学教員が副担任。いじめや不登校が見られない理由 5 点（日本人研究者の調査より）(⑩野村 10,p.195-)

授業は、生徒の個性や学習能力に合わせて進められる。強制や押し付けはしない。点数をつけて生徒の学力を評価するための試験はないので成績表はない。教え方、教科書、教材は各学校に一任。(⑩野村 10,p.184) 授業の進め方は、生徒たちがお互いに考えあい、協力しながら学習するという相互学習のスタイルが採用されている場合が多い。机の配置もロの字型や共同作業しやすい寄せ型が一般的。9 学年の終わりに国が行う統一試験がある。卒業後の進路の参考にするためのものなので、生徒が希望しなければ受けなくともよい。(⑩野村 10,p.188)

(評価をめぐって) 8年生までは通地表がない。その代わり三者面談で話し合う。

試験は国民学校を卒業する 9 年生までないが、テストは頻繁に行われる。(⑨千葉 11,p.119)

試験で重視されるのは口頭試問である。面接官は他校の教師。(筆者＝知識を自分のものとして、他者に説明できる能力が社会で通用する学力である。)(⑨千葉 11,p.121)

＜美術の時間＞自分なりの表現をすることに時間を割いている。(⑨千葉 11,p.84)

＜体育の時間＞何をやりたいかを子どもたちで相談し、好きなスポーツをする。個人競技で優劣を競い合うことのようなことはしない。(⑨千葉 11,p.84)

＜進路相談と職業体験＞

進路指導：○将来どんな仕事したいか、○卒業後職業高校コースに行くか、○大学を目指して普通高校コースへ行くか、○スクールアドバイザーは 1 対 1 で子どもと話し、進路を決める手助けをする。

職業体験：○6 年・7 年—自分を知ろう、○8 学年—どんな進路があるか知ろう、職業体験週あり、○9 年生—自分の進路を決めよう、職業体験週あり。(①江口 10,p.31)

＜図書館と校庭＞

○ 図書館は後者の中央にあり、専任の先生が配置されている。

○ 図書館は、教員の授業準備の資料を提供する。

○校庭は芝生が敷き詰められ、とても広い。(①江口 10,p.32)

＜FS の運営＞

学校運営は自治組織によって行われる。公私を問わず、学校運営委員会によって運営される (FS 法第 42 条)。構成：保護者代表 5～7 名、教職員代表 2 名、子ども代表 2 名 (ただし、5 学年までしかない学校の場合、子ども代表の選出はない。) 授業計画立案 →市町村の教委に提案 委員会の専決事項：各学年の選択科目の内容、特別教育の導入策、修学旅行の行き先や日程、学芸会や運動会の日程や内容 全国中学生連合会会長の 9 年生の国語の読解テストが難解であったことに対する文部大臣への苦情申し立て (③スズキ 10a,p.95)

子ども自身に考えさせて、子どもたちが自分で答を見つけるまで丁寧に考えさせることにある。教科書を変えないのは、教材費の予算の問題もある。どんな田舎の小学校でも、3 年生からはどの子にも専用のパソコン 1 台配布され、教師・生徒間・家庭との連絡ができるように教えられている。校内には無線 LAN が整備されている。(③スズキ 10a,p.106)

＜10 年使い回される教科書＞ FS では教材選択は教員の裁量 10 年使いまわされる教科書 教材費 パソコン一人 1 台 教科書の執筆者は現役の教師 教科書の分量はすべて 100～150 ページ 日本のような「検定」や認可はない 執筆者の略歴や紹介もない (③スズキ 10a,p.109)

通常、9 年間クラス編制が変わらないだけでなく、クラス担任 Klassenlaerer も代わらないことも稀ではない。市町村に設置義務、しかし就学義務はない。進学希望者のために第 10 学年も設置義務。約 5 割が 10 学年に進む。義務教育学校のクラスサイズは最高 28 人である。(教大協 II p.104)

公立学校は、私立学校に比して、基本的には教科書の勉強に力を入れ、試験や競争が激しい (③スズキ 10a,p.82)。

学校まで 3 キロ以内の場合、保護者が送迎する自転車で通学。3 キロを超える場合、市営のスクールバス (③スズキ 10a,p.82)。

学級規模（1998 年） 小学校の P T R は 10.6 人（1～6 学年）、11.6 人（7～10 学年） 最大規模：28 人 （独）21 人（1～6 学年）、16.4 人（7～10 学年）（④スズキ 11,p.114）

2) フリースコーレ（自由学校＝私立）

保護者が運営管理する学校。全国に約 **500 校**ある（06 年）（③スズキ 10a,p.79）。子どもの成長段階に応じた教育方針を採用。K から 10 年生まで約 9 万 2000 人が通学。明確な教育理念を掲げる。イスラム、キリスト教再臨派など宗教関係の理念を掲げるフリースクールもある。

保護者の代表が理事会を形成し、理事会が学校経営に当たる。教員資格の自由（資格所有率 53%：04 年）。運営管理費の約 75%は国庫からの助成金。保護者の負担は年間約 9500 クローネ（約 19 万円）

法律によって通常の試験を免除。

移民や難民の子どもが増加するにつれて、フリースクールへの就学者も増え、約 10%がデンマーク語を母国語としない子ども。10 年間で約 3%増加。約 500 校のうち 19 校が移民の子どもだけを受け入れ。文部省が国の方針や規則に照らして監督。改善勧告や閉鎖命令を出す権限（③スズキ 10a,p.82-84）

3) エフタースコーレ

14・5 歳から 16・7 歳くらいまでの青少年のための学校。8～11 年生（14～18 歳）が就学できる独立行政法人。全国に約 230 校ある（③スズキ 10a,p.79）。

全寮制。教育方針は各学校に一任しているが、共通するのは「人格形成」

ES は保護者団体の支援によって成り立つ。その代表者が理事会を組織し、理事会が校長を選任し、校長と理事会が教職員を採用する。学生規模は 30～200 名（平均 80 名）。学校での授業や活動はグループ単位。週末も授業や活動。

学費負担の状況（③スズキ 10a,p.85-86）

4) 放課後の児童施設

57 万人の学童が通所（08 年度）（③スズキ 10a,p.72）

- ① 年齢総合施設：0～13 歳対象。約 16 万人
- ② 学校放課学級（SFO）：6～10 歳児対象。月～木の 13:30～17:30、金の 13～14 時開所。職員が子どもの出入りをチェック。保護者が帰宅するまで子どもの世話をする。決まった活動はしていない。
- ③ 放課ホーム：10 歳以上児対象。月水金は 12～17:30、火木は 12 時～20 時開所。出入り自由、活動自由
- ④ 各種の子どもクラブ：全学年対象 施設数：601 利用者数：73,382 人 職員数：4,834 人 サッカー、バドミントン、ハンドボールなどスポーツクラブが多い。

【学童保育】デンマークの学校は、校内か隣接地に学童保育を持っている。3 年生までのほとんどの子は、放課後、学童保育所で過ごしている。ヒメレブ校の生徒は数が多いので 1 箇所 100 人の保育所が 3 つある。ここは夕方まで、目一杯友達と遊ぶ場所。趣味の活動、スポーツ活動、子どもが暴れる部屋、休養するコーナーなど多彩な活動を可能にする。子ども 12.1 人に指導員 1 人がつく。子どもに向き合う 3 者（親、教師、学童の保育士）が責任を果たせるよう連絡を取り合う。時々お泊まり

会もする。(①江口 10,p.33-35)

【ヴィアドクテン青少年余暇センター】4 学年以上の学童保育施設が青少年予科センターである。
(①江口 10,p.36-37)

【ロドオア余暇センター】動物の世話を通して責任を持つことを教える。このクラブは人気があり、2 年待ちの子もいる。250 名が登録、スタッフ 14 人。(①江口 10,p.38)

【ヘーダーボーパーケンス余暇センター】かつて学校だったところを施設としたので、遊び場が広い。サッカー場、動物飼育棟、隠れ家遊びの小屋、池などがある。室内には売店もある。4 学年以上の学童保育施設が青少年予科センターである。(①江口 10,p.36-37)

【宿題カフェ Homework café】 (①江口 10,p.66)

【地域の協力】SSP=School, Social Offices and the Plice

地域の協力で生徒指導 (①江口 10,p.67)

5) 義務教育教員の養成

【養成機関】4 年制の教員養成カレッジ Seminarium (全国に 18 校。「中期」の非大学型高等教育。入学要件：高等教育準備試験もしくはそれに相当する HHX あるいは HTX) のいずれかに合格している者。

【教育課程】1) キリスト教研究／生活の哲学 0.20 年、2) 主教科—デンマーク語または数学 0.70 年、3) 3 つの選択主教科 各 0.55 年 (計 1.65 年)、4) いずれかの主教科に関する課題研究 0.15 年、5) 教育学 (教授学、心理学、教育理論、社会の中の教育など) 0.70 年、6) 教育実習 0.60 (24 週間) 総計：4.0 年

1998.6.18、行政命令 82 号：教員養成プログラムの目標 4 点：①教科並びに教育学に関する理論。義務教育学校で行う実践的基礎。その他の授業並びに提示のし方に関する実践的基礎をそれぞれ習得する。②理解面や実践面を活かして協働できるように、また授業の計画、実施、評価が行なえるようにする。③教科的側面を含む課題研究を通して、協働を通して、さらには教育責任を共に発揮し合うことをとおして人間的成長を図ることができる。④子どもや大人の学習に関わる取り組みに高い参加意欲をもち、喜びを見出すことができる。

【待遇：給与】小中学校の教員の平均月給：約 3 万 500 クローネ (61 万円)、勤続年数 25 年フルタイム勤務の月収は約 4 万 5,000 クローネ (約 90 万円) 学校には転勤制度がない。本人が希望するかぎり退職するまで同じ学校で同じ教科の教師を続ける。校長は公募制 (④スズキ 11,p.112)

【勤務時間】教師の労働時間：週労働時間 37 時間×52 週 (1 年間) =1924 時間 1924 時間-244 時間 (6 週間の休み+日曜日・祭日) =1680 時間 (④スズキ 11,pp.112-)

教員資格の種類：①就学前教育教員、②義務教育学校教員、③後期中等教育教員、④職業教育学校教員 (教大協 p.107)

6) 学校保健師

小中学校に配置され、校内を巡回して子どもたちの健康を管理する。

<職務> 幼稚園クラス=0 学年：入学適性検査、運動神経・視力・聴力色盲検査、児童・保護者の支援相談 2 学年：学童への支援相談 5 学年：思春期の問題、特に女子の生理について講義／必要のある子どもを対象に、視力・聴力検査／身長・体重検査 6 学年：男子の思春期の問題について

の講義／必要のある子どもを対象に視力・聴力検査／身長・体重検査 8 学年：性教育 9 学年：小児科医による身体検査 その他：アレルギー、肥満児、夜尿症など問題を抱える子どもを持つ家庭への訪問（③スズキ 10a,pp.80,81）

第2節 義務教育制度と「幸福な人生」

1. 指標 A（学習者主体）

1-1 保護者＝子どもの代弁者の主導する学校運営委員会・理事会が学校を運営する

私立学校はもちろん、公立学校の経営も、保護者が主導する学校運営委員会が行なう。これに生徒も参加し、人事以外のすべての案件を審議する。

1-2 授業は子ども主体で、強制は一切なし

授業は相互学習のスタイル。一切強制しない。生徒の学力を評価する試験はない。

1-3 授業（教材選択・授業方法）は生徒の設計、教員の提供

2. 指標 B（公正原理）

2-1 地方自治体の設置義務・無償制

2-2 保護者の選択の自由

3. 指標 C（幸福達人育成）

3-1 公立国民学校による全人教育

国民学校では、①民主主義の行動様式、②言語教育による表現力、③人間としての知力、体力、判断力、④職業教育など、全面発達が期せられる。

3-2 問題解決学習による問題解決能力の育成

3-3 学校外学童保育による趣味の教育

4. 指標 D（教育・生活の連携）

4-1 学校保健師の配置によって教育と健康の連携を図る。

4-2 放課後の学童保育によって、基礎教育と趣味やスポーツ教育と生活倫理の連携

5. 指標 E（再チャレンジ可能性）

5-1 10 学年の開設による進路の変化を促す。

5-2 私立のフリースクールやエフタースクールを選択することができる。

6. 指標 F（国際平和志向）

6-1 日常英語力を育成する。

第V章 後期中等教育

第1節 後期中等教育の概要

デンマークにおいては、10 年間の義務教育（0 学年～9 学年ないし 10 学年）を修了すると、後期中等教育に接続する。後期中等教育には、2 系統がある。①普通教育学校（ギムナジウム gymnasium）と②職業教育学校とである。

1) 普通高等学校（ギムナジウム）

<入学> 卒業後さらに上級の学校に進学しようとするもののための 3 年制の学校である。進学率

は 45%程度である。入学に際して、原則として入学試験はない。7～9 (10) 年生時の成績と適性により入学者が決まる。(①野村 10p.189) 年齢制限はない。(⑨千葉 11,p.92)

落第 スクールアドバイザーに相談 新路の見直し (⑨千葉 11,p.96)

＜コース＞ 数理系と文系に分かれる。どちらも 3 年間で必修科目と選択科目を履修しながら試験を受けて評価を得る。(③スズキ 10a,p.122-)

【課程】1、普通教育課程：①ギムナジウム Gymnasium (義務教育後、高等教育への進学準備を目的とする 3 年課程の伝統的学校)、②高等教育準備試験コース HF=Hoejere Forberedelseksamen (2 年制の全日制課程、義務教育学校に付設された第 10 学年を修了した者を対象とする)。

【教科】(必修科目) 国語 A、歴史 A、英語最低 B、古代史 C、宗教最低 C、体育最低 C、数学最低 C、物理最低 C、社会最低 C、美術科目 (絵画、演劇、音楽) 最低 C、自然科学 (生物、化学、自然地理のうち最低 2 科目を履修) 最低 C *A 水準=3 年間受講、B 水準=2 年間受講、C 水準=1 年間受講

(選択科目) 上級数学、哲学、歴史概論、生物、商法、金融論、心理学、宗教など約 70 科目 (③スズキ 10a,p.124-)

2) 商業科・工業科 (専門教育課程)

① 上級商業試験コース HHX=Hoejere Handelseksamen、

② 上級技術試験コース HTX=Hoejere Teknisk Eksamen

いずれも 3 年課程、それぞれの高等教育カレッジに接続

【卒業資格】商業科→「上級商業試験 HHX」 工業科→「上級工業試験 HTX」

【教科】HHX：必修科目には国語や英語のほかに「販売」「商法」などの教科が加わる。選択科目では「国際経済学」「企業経済学」など商業に重点をおいた教育。卒業資格の取得には、筆記試験が最低 10 科目、口頭試験が最低 10 科目の試験に合格し、教育方針に添ったプロジェクトの提出が必要。(③スズキ 10a,p.125)

HTX：必修科目には英語、物理、化学のほかに「建築」「エネルギー」「製造」などの教科が加わる。このコースでは、数学や技術、自然科学分野に重点をおいた教育をしているので工科大学に進学する学生に向いている。卒業資格の取得には、筆記試験が最低 10 科目、口頭試験が最低 10 科目の試験に合格し、教育方針に添ったプロジェクトの提出が必要。(③スズキ 10a,p.124-)

これらの試験の際には、担任以外に必ず他校の先生が試験に立ち会う。この試験官制度を「センサー」と呼び、外部からの評価を加えて学力が判定されるので、いわゆる「有名校」「進学校」という学校間格差が生じない。単位試験で良い点を取るのはかなり困難で、13 点満点で平均点が 10 点を超えるの全校生徒の 5%程度、8 点～7 点の間が 70%だといわれている。医学部などの難関学部に進学志望の学生は猛勉強をするが、日本のように夜遅くまで進学塾に通って受験勉強をすることはない。筆記試験はすべて資料や教科書の持込が可能 (③スズキ 10a,p.123)

【ロスキレ技術高校】Roskilde technical high school

12 領域、110 部門の 308 専門分野。履修期間は 1 年半から 5 年半まで。年間 2,700 名が学ぶ。教員は 371 名、うち常勤 244 名。予算はほとんど国費。(①江口 10,pp.75-80)

3) 職業教育学校

高等学校に進学しない者は将来自分のなりたい職種の専門学校（修業年限は3年間）へ進む。義務教育修了者の約50%がそうである。小さい時から自分の個性に合った教育を受けてきているので、高等学校に入れなかったとって劣等感を持つことはないし、親も失望することはない。（⑩野村10,p.189）

高等学校には、「職業教育学校」というコースが併設されている。次の12分野（ほぼ全職種を網羅）で理論学習と同時に職場での実習訓練を受けることができる。①動物・植物・自然、②生産と開発、③電流・制御・IT、④自動車・飛行機その他の運輸機器、⑤建築・土木、⑥建物と保全管理、⑦運輸とロジステック（物流）、⑧商業、⑨メディア、⑩食品・食料、⑪保健・介護及び教育、⑫美容

このコースの特徴は実習が重視されていること。しかも見習給ではあるが給料がもらえる。卒業後すぐに職に就くことができるので特定の職業を目指す生徒が通う。さらに「農業学校（2年）」に進学して「農業技師」の資格を取るか、大学（3～5年）に進学して「造園設計技師」の資格を取れば、給料はグレード・アップする（③スズキ10a,p.126）。

同時に二つの職業資格は取れない。しかし、数学や心理学など一般教養の単位は、2つめにもカウントできるので、履修期間は短縮できる。（⑨千葉11、p.98）

職業学校には、雇用状況に連動して、定員がある。定員は国が定める。（⑨千葉11、p.99）

第2節 後期中等教育と「幸福な人生」

1. 指標A（学習者主体）

1-1 進学・進路は本人の意志と適性で決まる

2. 指標B（公正原理）

2-1 後期中等教育の無償制

2-2 入学試験はない。入学には他校の教員も評価に加わる資格の取得が条件である。

3. 指標C（幸福達人育成）

3-1 後期中等教育は、生徒の適性と希望に応じて専門教育が施され、修了者に資格が授与される教育段階である。

卒業資格は、ほぼ全職種を網羅し、希望する職種に就こうとするなら、対応する資格を取得していなければならない。子どもたちは、この資格の取得を目指して、場合によっては「0学年」や「10学年」で休みながら教育段階を上がってくるので、就活で苦労することも、ニートになることもない。

3-2 卒業認定には厳格で客観的な試験があり、授業は理論と職場実習によって実践向きの実力が備わっているので、卒業生たちは自信を持って社会に出向く。

4. 指標D（教育・生活の連携）

4-1 実習授業を通じて教育と産業が連携する。

4-2 高等学校は、進学準備教育も、専門職基礎資格取得教育も、職業資格取得教育も、市民教育も行う総合青年期教育機関である。

5. 指標E（再チャレンジ可能性）

5-1 学校を修了し、修了試験を受けるたびに、進路を見直す。

6. 指標 F (国際平和志向)

6-1 外国人を人材として受け入れる。

第VI条 高等教育

第1節 高等教育の概要

1) 高等教育の種類

高等教育は後期中等教育の課程を修了した学生がよりグレードの高い職業資格を得るために進学する教育機関である。それは、「長期」「中期」「短期」の3種類がある。

1) 「長期」long-cycle 課程

学士課程 (3 年) + 修士課程 (2 年) 等 5 年以上の課程をもつ総合大学並びに相当の単科大学 (修業年限 3+3=6 年)。

修士課程の養成職種：研究者、医師、弁護士、エンジニア、普通高校教師など。教員養成系はデンマーク教育大学 1 校のみ。(⑩野村 10,p.186,190)

2) 「中期」medium-cycle : 3~4 年課程の学士課程

養成職種) 国民学校教員、施設指導員、ジャーナリスト、ソーシャルワーカー、看護師、助産師

3) 「短期」short-cycle : 1~3 年課程の非大学型高等教育

養成職種：ビジネスコース、科学技術専門学校、ホテル、レストラン、学校など

義務教育学校の教員養成カレッジは「中期」、就学前教育教員の養成カレッジは「短期」に分類される。

2) 入学試験

入学試験はない。「高等学校卒業資格 (スツデンタエクサメン)」の成績によって進学する大学が決まる。この資格を持っていれば行きたいときに行きたい大学に行けるので、高校卒業後しばらく働いてから大学に行くという人生を選んだり、各地を放浪 (「サバドール」という伝統) する者、外国留学・国民高等学校を体験する者もいる。また、いつでも退学や再入学をすることも可能。ただし、入学の際には「統制入学制度」=大学間の学生数のバランスを計るため=による入学審査が行われる。(③スズキ 10a,pp.128-)

ポイントシステムを利用して入学するケースが認められている。この制度を利用して入学した学生の平均年齢は 25 歳前後となり、その結果新任教師は 29 歳前後の社会経験豊富な教員が教壇に立つことになる。

高等教育 (大学、上級専門学校) も私立でない限り授業料は徴収されない。そのうえ奨学金が月 3,600 クローネ (約 7 万 2 千円) 支給される。これは、18 歳になると子どもは親元を離れて学ぶので彼らに対する生活支援という意味もある。(⑩野村 10,p.190)

デンマークにはその他 19 世紀後半の自由学校運動に由来する学校群がある。①14 歳から 17 歳の青少年を対象とする私立全寮制の自由学校 Efterskole,②18 歳以上の青年を対象とするフォルケホイスコーレ Folkehøjskole など全寮制を基本とする人間形成教育理念を実践する学校群 (教大協 p.105)

⇒第八章

3) 大学卒業資格

毎年、卒業率は50%以下。卒業に必要な試験に3回失敗すると退学処分。(③スズキ 10a,p.130-)
大学教育は6年の期間を終えて修士号を取得するのが一般的(⑪野村 10p.186)

4) 大学生には学費と生活費(SU)が支給される

有能な職業・専門家(人材)を育成することが教育提供の最大の目標→学費は全学国庫負担。就学支援金も。(③スズキ 10a,pp.130-)

5) 「就学ローン」制度

金利は就学中は無利子、卒業時点から有利子。(③スズキ 10a,p.132-)

6) 国民は学生の未来に期待する

(③スズキ 10a,pp.133-)

7) 就職浪人の新卒者には失業保険を支給

(③スズキ 10a,pp.134-)

第2節 高等教育と「幸福な人生」

1. 指標A(学習者主体)

1-1 18歳=成人年齢、自己最高の人材に育つために高等教育は年齢不問

2. 指標B(公正原理)

2-1 高等教育の無償制

2-2 奨学金・就学ローンなどの就学支援金制度

3. 指標C(幸福達人育成)

3-1 厳格な能力審査による資格付与

4. 指標D(教育・生活の連携)

4-1 職場実習などによる高等教育と職業との連携

5. 指標E(再チャレンジ可能性)

5-1 教育を受け資格を取得することに進路確認

6. 指標F(国際平和志向)

6-1 外国人材育成

6-2 国際的協調

第Ⅶ章 成人教育

— 失敗しても道に迷っても国は支援し続ける／労働者は仕事のやりがいを見失わない(③スズキ 10a,第8章 pp.135-)

第1節 成人教育の概要

1) 成人年齢：18歳

親の扶養義務も終了し、国の保護が受けられる。働かなくても暮らしていけるようなさまざまな支援あり。それでも就業率はとても高い。(③スズキ 10a,p.67)

2) 人間に失敗や迷いは付きもの

失敗が修復され、軌道修正される機会の提供。「自己責任」だとして放置しない。

代表的な 2 例：①困難を抱えた若者を個別に対策する「若者教育指導センター」

②再チャレンジを支援する「ジョブセンター」

サイト「ジョブバンク」を運営

③再教育機関としての「労働市場教育センター」

「ジョブセンター」に併設（スズキ 10a、p.138）

3) 国民大学（フォルケホイスコーレ Folkehøjskole =FHS）

世界に例のないデンマーク独特の成人教育機関。1844 年に最初の FHS が南ロディンに開設。FHS の生みの親=グルントヴィの思想：学問とは試験のためとか、資格を取るためにあるのではなく、自己形成のためにするものであると考え、自由と対話による相互作用による全人教育を目指した。彼の教育思想は現在のデンマークの教育の根底をなすものであり、デンマークの国民的精神ともなって、今日のデンマーク社会に大きな影響を与えている。FHS はトックヴィの思想を受け継いでおり、現在約 90 校ある。

「民衆の大学」としての FHS の特徴は、①入学資格は 17.5 歳以上⁵、②全寮制、③校長ともう一人教師が学校敷地内に居住する、④試験をしない、⑤資格を与えない。履修期間 3～6 ヶ月。履修科目：①文学・歴史・自然科学などの伝統的な科目、②美術、陶芸、音楽、スポーツなどの趣味を生かした科目、③政治学、有機農業、フェミニズムなどの現代的課題の 3 領域が用意されている。受講生の中には大学への進学前や仕事をやめたり、別の仕事を求める場合、自分のモチベーションを高めるためやりフレッシュするために入学する。また、高齢者のためのコース、夏季だけのコースなどもあり、自分にあったコースを選んで、学ぶことができる。（⑪野村 10,p.190）

4) ウングダムスコーレ

16 歳から 19 歳までの青少年のためのフォルケホイスコーレ（⑪野村 10,p.186）

5) 余暇活動教育のための学校

どの市町村（コミュニン）にもイブニングスクールが存在する。これは主として、社会人の余暇活動教育のための制度（公が提供するお稽古事教室）である。授業料は本人負担。開設領域は幅広い。

希望者 12 名が指導者とともに講座の申請をすれば設置される。講座を履修し、試験を受ければ資格となるものもある。イブニングスクールは、国民学校の校舎、地域の公民館等を利用して夜間開設される。（⑨千葉 11pp.100～102）

6) 入学資格補充 —HF 講座と成人教育センター

高校中退者や希望する大学に入学できなかった者たちのための再教育機関。HF 講座は日本の「大検」と同じく、受講を修了すると大学入学資格を取得することができる。講座の受講資格は中学卒業、就学年限 2 年間。年齢制限はないが、就学者の 80%は 18～25 歳。就学者には「就学支援金」（SU）が出る。

「成人教育センター」は、資格取得を目的とした 18 歳以上の人たちのための教育機関。もってい

⁵ 回り道して入学する学生が多く、入学してすぐに 18 歳になる。

ない科目を受講して補充する。「就学支援金」が受けられる。(③スズキ 10a,pp.129-)

7) 「世界トップレベルの図書館サービス」

市民が思い思いの学習をするために集まってくる「生涯学習の拠点」(⑭吉田 10,p.2)

8) 「生きている図書館」(Living Library) 活動

2000 年、デンマークのロスキルで暴力追放をテーマとしたロック音楽会が活動の始まり。今ではイギリスをはじめとするヨーロッパ各国、トルコ、オーストラリア、ニュージーランドなど世界 23 ヶ国に広がっている。ヨーロッパ 46 カ国で組織する人権擁護機関「欧州会議」などもこの活動を支援している。(目的) 市民が普段近づくにくいと感じる人や、出会うことの少ない人に直接であって話を聞くことで少しでも誤解や偏見を解き、相互理解と人間の持つ多様性や生き方を理解する開かれた社会を目指すことにある。「本」＝各方面の活動家や経験者を、「読者」＝学習者が「借り出し」、「対話」によって「本」～活動の本質を引き出し学習する。(⑪野村 10,p.197)

9) 仕事を変える、勤続年数は平均 8 年、退職年齢は 62 歳

(③スズキ 10a、p.142-)

労働者にとって仕事とは 自分を成長させてくれる職場 (③スズキ 10a,pp.147-)

10) 世界中の人と友だちになれる

インターナショナル・ピープルズ・カレッジ (IPC) フォルケホイスコーレのひとつ 授業は 24 週のロングコースから夏季の短期コースまで。ロングコースには、世界の情勢、平和構築、丁社会・文化、丁語コースがある。費用は 24 週約 52 万円 (①江口 10,p.121)

第 2 節 成人教育と「幸福な人生」

1. 指標 A (学習者主体)

1-1 全面的学習の自由

2. 指標 B (公正原理)

2-1 いつでも、どこでも、だれでも

3. 指標 C (幸福達人育成)

3-1 問題を感じたら、国民高等学校入学

3-2 生涯学習の拠点、公共図書館

4. 指標 D (教育・生活の連携)

4-1 体験者から学ぶ「生きている図書館運動」

5. 指標 E (再チャレンジ可能性)

5-1 外国人の大人も受け入れる国民学校

6. 指標 F (国際平和志向)

6-1 世界中の人と友だちになりたい

6-2 外国語を学ぶ

第Ⅷ章 教育行財政

第1節 教育行財政の概要

公正原理の原点 公共サービスが各人に確実に届くように

「個人登録番号」(CPR) 制 (⑥スズキ 10、p.102)

ユーザー・ボード(利用者委員会)による利用者の直接的教育施設運営

市の個人託児所の運営について……保護者委員会

通所保育施設の運営について……保護者委員会

国民学校の運営について……各学校の理事会が責任を持って運営している。

4年ごとの選挙により委員選出

行政参加 保護者が主導

生徒代表2名も理事として理事会に参加 (⑩野村 10,p.1)

男女平等は豊かさと福祉のエンジン (①江口 10,p.10)

丁社会の基本原則。女子の高等教育参加率は世界最高。女性国会議員は37%。

平等推進大臣もいて、賃金格差を少なくする政策に取り組む。(①江口 10,p.10)

教育財政

18歳が成人年齢：18歳未満は「教育を受ける権利」=国家の無償義務

18歳以上は、「職業教育を受ける義務」=国家の就学支援金交付

第2節 教育行財政と「幸福な人生」

1. 指標A(学習者主体)

1-1 学習者の参加

2. 指標B(公正原理)

2-1 常に主体へのアクセス

3. 指標C(幸福達人育成)

3-1 全人教育

4. 指標D(教育・生活の連携)

4-1 インフォーマル・ノンフォーマル・フォーマル教育の連携

5. 指標E(再チャレンジ可能性)

5-1 希望の実現を目指して学習できる体制づくり

6. 指標F(国際平和志向)

6-1 グローバル社会の構築を目指して

第Ⅸ章 まとめ

第1節 デンマークにみる「幸福な人生へと導く教育制度」原理

これまでに、「幸福度世界一」といわれるデンマーク王国の教育及び教育制度を対象に、「幸福な人生」へとつながるとされる教育・教育制度の諸原理を探究する作業を行ってきた。下の表は、その作業結果の全体である。表の下には、「幸福な人生へと導く教育制度」の原理内容が指標別に総覧で

きるように一覧表にした。合計 63 個の原理・工夫が抽出できた。

＜表 1＞デンマークに見る「幸福な人生へと導く教育制度」原理数教育制度領域・指標別一覧

制度領域	指標 A	指標 B	指標 C	指標 D	指標 E	指標 F	小計
I、教育体系	3	2	1	1	0	0	7
II、家庭教育	2	2	2	1	1	0	8
III、幼児教育	1	1	2	0	0	0	4
IV、義務教育	3	2	3	2	2	1	13
V、後期中等教育	1	2	2	1	2	1	9
VI、高等教育	1	2	1	1	1	2	8
VII、成人教育	1	1	2	1	1	2	8
VIII、教育行政	1	1	1	1	1	1	6
合計	13	13	14	8	8	7	63

＜表 2＞「幸福な人生へと導く教育制度」原理指標別・教育制度領域別見出し一覧

1. 指標 A（学習者主体）

- 1-1 胎児から高齢者までの発達段階に応じた生涯学習体系（A 幼児教育,B 義務教育,C 職業教育）
I
- 1-2 個人差に応じる学校制度 I
- 1-3 特別支援教育＝ノーマライゼーション I
- 1-4 子ども一人ひとりに家庭保健師、各家庭に家庭医 1 人が指定されており、一人ひとりの健康管理に責任を持つ II
- 1-5 育児休業を保護者に保障し、保護者とその子弟の接触時間を多くする II
- 1-6 幼児教育でも、自己決定を尊重し、いっさい強制しない III
- 1-7 保護者＝子どもの代弁者の主導する学校運営委員会・理事会が学校を運営する IV
- 1-8 授業は子ども主体で、強制は一切なし IV
- 1-9 授業（教材選択・授業方法）は生徒の設計、教員の提供 IV
- 1-10 進学・進路は本人の意志と適性で決まる V
- 1-11 18 歳＝成人年齢、高等教育は年齢不問 VI
- 1-12 全面的学習の自由 VII
- 1-13 学習者の参加 VIII

2. 指標 B（公正原理）

- 2-1 憲法のエデュケーション条項＝国民全員で教育を受ける権利を守る I
- 2-2 統一学校 I
- 2-3 出産、医療は無償である II
- 2-4 18 歳まで子ども手当が支給される II
- 2-5 家計が就園に影響しない III
- 2-6 地方自治体の設置義務・無償制 IV
- 2-7 保護者の選択の自由 IV
- 2-8 後期中等教育の無償制 V
- 2-9 入学試験はない。入学は他校の教員も評価に加わる入学資格の取得が条件である V
- 2-10 高等教育の無償制 VI
- 2-11 奨学金・就学ローンなどの就学支援金制度 VI

- 2-12 いつでも、どこでも、だれでも生涯学習Ⅶ
- 2-13 常に主体へのアクセスⅧ
- 3. 指標 C（幸福達人育成）
 - 3-1 国民義務後皆学Ⅰ
 - 3-2 教育の基盤をなす体力・健康をすべての乳幼児に保障するために家庭保健師・家庭医師制度が確立されているⅡ
 - 3-3 民主主義（意見を言う、人の意見を聞く、時間をかけて話し合う、合意を見出す）の理解と訓練Ⅱ
 - 3-4 孤独を避け、仲間づくり、話合いで問題を解決する訓練、育児支援体制Ⅱ
 - 3-5 幼児教育においては自然環境の中での遊びによる基礎体力および仲間作り話合い技法の修得を重視Ⅲ
 - 3-6 公立国民学校による全人教育Ⅳ
 - 3-7 問題解決学習による問題解決能力の育成Ⅳ
 - 3-8 学校外学童保育による趣味の教育Ⅳ
 - 3-9 生徒の適性と希望に応じて専門教育が施され、修了者に資格が授与されるⅤ
 - 3-10 卒業認定には厳格で客観的な試験があり、授業は理論と実習によって実践向きの実力が備わっているため、卒業生たちは自信を持って社会に出向くⅤ
 - 3-11 厳格な能力審査による資格付与Ⅵ
 - 3-12 問題を感じたら、国民高等学校入学Ⅶ
 - 3-13 生涯学習の拠点、公共図書館Ⅶ
 - 3-14 全人教育Ⅷ
- 4. 指標 D（教育・生活の連携）
 - 4-1 教育・医療・福祉の連携Ⅱ
 - 4-2 学校保健師の配置によって教育と健康の連携を図るⅣ
 - 4-3 放課後の学童保育によって、基礎教育と趣味やスポーツ教育と生活倫理の連携Ⅳ
 - 4-4 実習授業を通じて教育と産業が連携するⅤ
 - 4-5 高等学校は、進学準備教育も、専門職基礎資格取得教育も、職業資格取得教育も、市民教育も行う総合青年期教育機関であるⅤ
 - 4-6 高等教育と職業との連携Ⅵ
 - 4-7 体験者から学ぶ「生きている図書館運動」Ⅶ
 - 4-8 インフォーマル・ノンフォーマル・フォーマル教育の連携Ⅷ
- 5. 指標 E（再チャレンジ可能性）
 - 5-1 教育体系は再チャレンジの機会の体系であるⅠ
 - 5-2 子どもの様子を見て保護者は育児環境を変えることができるⅡ
 - 5-3 10 学年の開設による進路の変化を促すⅣ
 - 5-4 私立のフリースクールやエフタースクールを選択することができるⅣ
 - 5-5 学校を修了し、修了試験を受けるたびに、進路を見直すⅤ
 - 5-6 教育を受け資格を取得することに進路確認Ⅴ
 - 5-7 国民学校ですら外国人の大人も受け入れるⅦ
 - 5-8 希望の実現を目指して学習できる体制づくりⅧ
- 6. 指標 F（国際平和志向）
 - 6-1 日常英語力を育成するⅣ
 - 6-2 外国人を人材として受け入れるⅤ
 - 6-3 外国人人材育成Ⅵ
 - 6-4 国際的協調Ⅵ
 - 6-5 世界中の人と友だちになりたいⅦ
 - 6-6 外国語を学ぶⅦ
 - 6-7 グローバル社会の構築を目指してⅧ

第2節 デンマークにみる「幸福な人生へと導く教育制度」考

1) 歴史的性格

前節で総覧したように、デンマークに構築されている教育制度から、国民を幸福な人生へと導く教育制度の原理を 60 個余引き出すことができた（漁獲 60 匹余）。他国の教育制度を同じ方法で分析してみなければ分からないが、おそらく、「幸福度世界一」の教育制度だと見ていいだろう。

6 つの指標のうち前半 3 つの指標（指標 A＝学習者主体、指標 B＝公正原理、指標 C＝幸福達人育成）に含まれる教育制度原理が圧倒的に多く、逆に、後半 3 つの指標（指標 D＝再チャレンジ可能性、指標 E＝教育・生活の連携、指標 F＝国際平和志向）に含まれる原理が少なかった。この事実、ますます精緻化される「教育制度」の概念が絡んでいるとともに、グローバル化・国際化への「産みの苦しき」の渦中にある現代の歴史性を物語る。

指標 A、指標 B、指標 C は近代的指標であり、18 世紀中頃より近代化を進めてきた国々が一様に目指してきた理念であった。しかし、これらの理念の実現は容易なことではなかった。というのは、①国家間競争、②国民間に権力・経済・文化・性別・身分・人種・能力など種々の格差、③能率主義的思考法などがあって、近代社会には、上の指標の定着を妨げる条件が数多く存在しているからである。

2) 「国際平和志向」の重要性

例えば、①の「国家間競争」はどのように人類の幸・不幸を左右するであろうか。世界には、200 あまりの国家があつて、それぞれが交流しあっている。そして利害が対立すると、交流は対決となり、戦争が勃発する。

戦争は原始の昔から後を絶たない。第 1 次、第 2 次二つの世界大戦を経て、その悲惨な結果に驚いて、人類は、金輪際戦争は行わないと国連などの国際機関を設けて誓ったはずなのに、その後も戦争は堪えない。戦争は多数の人命を奪う。膨大な財産・資源・文化財などを灰燼に帰す。戦争となれば勝たねばならないから日頃から勝利の訓練が必要となり、戦争関連のみならず、生活万端がそれに向かって整備される。個人の主観的な幸福や弱者への思いやりなど国家にとって小さなことはすべて無視されてしまう。幸福への指標など一顧だにされなくなる。

こう考えてくると、「幸福な人生へと導く教育制度」の指標のうちで最も重要な現代的指標は、「6、指標 F(国際平和志向)：国家を超えて地球規模の視野で、教育環境を整備し、「国際平和」と社会の「安心・安全」のうちに教育が行われるように配慮する」ことである。デンマークは、第 1 次、第 2 次の両世界大戦中「中立国」を貫いた。しかし、強隣国ドイツに無視され、大きな損害を被った。指標の分析には、外交や軍事の領域も加えなければならない。

3) 試論を超えて

本稿は試論の域を出ていない。第一に時間不足であつた。ぼんやりと、こんな研究も意味があるかな、と着想めいたものが湧いてきたのが今年の 75 歳の誕生日頃であつた。急いでデンマーク教育に関する和文文献を買い集めたものの、研究枠組みの骨格が見えてきたのが昨年暮れ。和文文献の荒読みと指標による分析を同時並行的に進めながら、一応のめどをつけて除夜の鐘を迎えた。

この試論を超えるために、第一に、デンマークの教育制度に関する和文文献を本稿で示した 6 つの指標で幅広く分析し、かつ指標の有効性を見直すこと、第二に、同じ指標で日本の教育制度を分析し、デンマークの場合と比較してみることによって、指標の見直しを行うこと、第三に、デンマーク以外

の幸福達人育成教育制度論（ユートピア、コメニウス、コンドルセ、ランジュヴァン・ワロン教育改革論、現代世界の主要国の教育制度改革など）の分析により、超歴史的な教育制度原理を抽出する。

「幸福な人生を導く教育制度原理」などという主観的な用語を用いて、説得力に富む結論を得るためには、「比較」と「歴史」と「論理」という客観化の道具立てが必要である。

本稿は、近年提案され注目を浴びている「希望学」⁶の教育制度版として今後も発展させたいと思う。高齢者の研究意欲の発露のフィールドとして期待している。

<デンマーク教育・教育制度に関する出典>

- ① 江口千春著／ダム雅子訳『デンマークの教育に学ぶ 生きていることが楽しい 対話と教育で築く幸福度世界一の国』かもがわ出版、127p.、2010.11
- ② 澤渡夏代ブラント『デンマークの子育て・人育ち 「人が資源」の福祉社会』大月書店、237p.、2005.11
- ③ ケンジ・ステファン・スズキ『デンマークの超福祉大国になったこれだけの理由 どこが違うのか！？ 安心して暮らせる希望社会と無縁死3万人の国』合同出版、231p.、2010.04
- ④ ケンジ・ステファン・スズキ『増補版 デンマークという国 自然エネルギー先進国 [風のがっこう] からのレポート』合同出版、229p.、2006.02
- ⑤ ケンジ・ステファン・スズキ『なぜ、デンマーク人は幸福な国をつくることに成功したのか どうして日本では人が大切にされるシステムをつくれないのか』合同出版、229p.、2010.04
- ⑥ ケンジ・ステファン・スズキ『消費税 25%で世界一幸せな国デンマークの暮らし』角川 SSC 新書、174p.、2010.11
- ⑦ 鈴木優美『デンマークの光と影—福祉社会とネオリベラリズム』リベルタ出版、247p.、2010.12
- ⑧ 高田ケラー有子『平らな国デンマーク—「幸福度」世界一の社会から』NHK出版生活人新書、222p.、2005.08
- ⑨ 千葉忠夫『世界一幸福な国デンマークの暮らし方』PHP新書 618、206p.、2009.09
- ⑩ 西澤秀夫編「デンマークの社会福祉」 pp.20～259（仲村優一・一番ヶ瀬康子『世界の社会福祉⑥ デンマーク、ノルウェー』旬報社、530p.、1999.03）
- ⑪ 野村武夫『「生活大国」デンマークの福祉政策 ウェルビーイングが育つ条件』ミネルヴァ書房、257p.、2010.06
- ⑫ スティーヴン・ボーリシュ著／難波克彰監修／福井信子監訳『生者の国 THE LAND OF THE LIVING デンマークに学ぶ全員参加の社会』新評論、507p.、2011.06
- ⑬ 山本真美「デンマーク—女性の社会進出が進む国」 pp.23～52（汐見稔幸編著『世界に学ぼう子育て支援』フレーベル館、207p.、2003.07）
- ⑭ 吉田右子『デンマークのにぎやかな公共図書館 平等・共有・セルフヘルプを実現する場所』新評論、264p.、2010.11

桑原 敏明（筑波大学名誉教授）

⁶ 玄田有史編著『希望学』中公新書ラクレ、2006 玄田有史『希望のつくり方』岩波新書、2010
未来学の教育学版として岡本智周／田中統治編著『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011 参照